

“続けるということ”

園長 高杉 洋史



今年度はどういうわけか朝の七時から七時半までの三十分間、ピアノの練習を続けています。私にしたら画期的なこと、毎年一曲マスターする課題を半年でクリアーできそうな勢いです。番号でいきますと七十番程度の曲です。それでも右手と左手が違うリズムの曲に、爺の頭の中は大混乱です。今度の曲はちよつと無理かなと思いつつ、好きなメロディーに未練が残り、ぼちぼちでも雑音を撒き散らしていると十日もたつと四小節くらいは何らかの手ごたえが出てくるものです。脳というのは不思議なものだと実感しています。ドソレミソと楽譜を覚えるのは単語を覚えるのと似ているので、脳の使い方としては慣れていくのですが、その通りに指が動くかというところが、いけません。これが、何日か練習すると動くようになる不思議。そして反対の手のリズムとメロディーに重なる不思議。自分の脳をどのように使っているのかわからないのですが、新しいことができた驚きと喜びを感じます。何日もできなかったことが、ある朝突然できるようになる快感を子どもたちは頻りに感じていくのでしよう。

さて本題です。言いたいことは二つ。習慣と挑戦についてです。

習慣について

幼児が基本的な生活習慣を身につけることは大切なことです。「早寝早起き朝ごはん」という標語はご存じのことと思います。しかし、「知っていること」と「実行すること」と、そして「毎日続けること」は違いますね。たぶん実行と継続が難しいから「早寝早起き朝ごはん」という標語ができたので

挑戦について

外遊びの様子を見てみると鉄棒に挑戦している子どもたちの姿に目を引かれます。友だちの技に誘発され何度も挑戦している姿は遊びと練習が混然一体となり、輝いています。ブランコもそうで、大きく立ちこぎができる子どもたちを自慢したくなります。日本の平均的幼稚園は、怪我をしないように「ブランコは座って乗りましょうね」という状況です。それにくらべて本園の子どもたちは捻りまで入れることができます。また、グラウンドでは補虫網をもってチョウを追いかけてたり三輪車で走り回っています。業務目標を達成するために挑戦するというのではなく、遊びの中にかく挑戦するということ子どもたちの世界はとても素敵な世界です。その世界をのぞかせてもらえる私たちは、幸せな大人なのですね。

